

DATA

■お問い合わせ先
JAかつの 営農経済部
TEL.0186-23-2497
http://www.ja-kazuno.or.jp/



花き生産部会

- 部会員
54名(延べ人数で38名がユリ、27名がトルコギキョウ、コギク12名)
- 面積
全体で10ha(ユリ7ha、トルコギキョウ1ha、コギク1haほか)
- 出荷量
約180万本(135万本がユリ)
- 販売目標金額
1億2千万円

JAかつの強みは需要期に出荷できること。お盆用に、8月5日～10日頃までが出荷のピーク。東京の新盆の風習にあわせて7月から出荷を始め、お彼岸過ぎの10月頃まで出荷が続く。他産地に比べ冷涼な気候のため、競合も少ない。



2



3



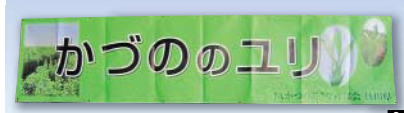
4

5



6

7



8



1

1 お盆に向けた出荷目揃い会の様子。規格基準を確認。2 暴風対策のフラワーネット。生長とともに高さも調整。3 「3輪なら出荷時のつばみの大きさは10cm～12cmと決まっている。ベストなタイミングで収穫することが大切」と花き生産部会の池田政義部会長。栽培品種は雷山と優雅(早生タイプ)。4 出荷前の新テッポウユリ。大田花き、第一花き、仙台生花、秋田生花などに出荷する。お盆時期の大田市場では「かづののゆり」が6割以上を占めるとか。5 出荷前のトルコギキョウ。6 新テッポウユリ栽培講習会。品種の特性、違いを勉強中。7 トルコギキョウの栽培講習会の様子。8 市場での販売促進に活躍しているのぼり。



JAかつの かづののユリ

鹿角地域ではお彼岸に向けて新テッポウユリの出荷が盛んだと聞きました。産地のことを知りたいです。



ナビゲーター
JAかつの
営農経済部 営農販売課
佐々木 政孝さん



鹿角地域は花き栽培が盛んなのです。昼夜の寒暖差が大きいJAかつの管内は、花が疲れにくい状態で育成できる地域。暑い日でも夜にゆっくりクールダウンできるため疲れが少ないうえ、養分を消費することなく球根に蓄えることができます。結果、高さのある茎に大きな花が育つというわけです。市場からも「茎も葉も花もかづの産はホリユームが違う」と高い評価をいただいております。

中でも新テッポウユリの栽培規模が大きいですね。

新テッポウユリは2月に種を蒔き9月のお彼岸に収穫を迎えます。そのまま球根を雪の中で養成し、翌年の8月に再び収穫期を迎えます。ユリは通常、播種から開花までに3年かかると言われていますが、新テッポウユリは、1回種を蒔けば2回収穫できるということも魅力のひとつです。しかし、病気に弱いため、雨が降ったあとは必ず薬剤を散布し消毒しなければならぬが大変ですが、「育成が難しい分、収入に繋がりがやすいのでやりがいがある」という声もあります。花き部会には20代、30代の生産者が増えていて、自発的にベテランに教える請う機会も多く、活気がありますよ。JAとしては、こうして育成された花きの販売力強化に重点を置いて進めています。

現在の栽培面積だと、一億二千万円を売り上げることが可能ですが、病気などの理由から実際は一億円ほどの売上高です。管内では新テッポウユリだけでなく、キクやブライダルで需要が高いトルコギキョウなどの生産も盛んです。これらも含めて少しでも生産者の収入を増やしたい。規格外の花きをムダにしない売り方にも力を入れていきたいと思っています。全ての花にランク付けをして売り切る具体的な施策を考え進めていきたいですね。

●消費者の手元に届いた時に最高の花を咲かせるよう、毎日が真剣勝負なのです！

部会が一丸となつていている感じが伝わってきますね。

部会で共同播種、共同育苗をしていますし、個運共販のため一人ひとりの責任感がとても強いですね。部会役員の方々の行動力もすばらしく、自分たちで自主的に畑を見て回ったり、良い意味で競い合い、助け合つて一丸となっていると思います。講習会以外でも実際の花の状態を見まわり、部会として問題を解決していく力が備わっている方々です。当然ですが、目揃い会に参加しない人は出荷停止というルールもあります。もちろん部会としても講習会を行っています。今年の新テッポウユリ栽培講習会では、ユリの販売状況や管理、病害虫駆除について学びました。

今後の目標を教えてください。